



お江戸舟遊び瓦版 1122号

水彩都市江東　こころ美しい日本の再生　安全・安心まちづくり
お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会　江東区千田 13-10

北砂まぜこぜマルシェ

日時：9月20日 10:30～14:30　所：ゆめ工房
はじめに

2027年に江東区北砂において、全ての人たちにとって安心できる居場所の開所を目指している。それに向けて、近隣の方々との相互交流の場づくりをはじめ、施設に必要な情報収集やネットワーク創りのため、毎月第3土曜日にマルシェが開催されている。次は11月15日！

江東区内に広がる福祉施設と一般的な事業者をまぜこぜにしたマルシェで、特徴は障害者施設で働いている仲間が、全てのブースで様々な業務を出店者とともにに行うことにある。人びとが買い物の中で自然な形で、障害ある人と触れ合える機会を創り出している素敵なマルシェとなっている。

こども食堂ならぬ誰もが食べられるユニバーサル食堂は沢山の人のびとの交流の場・安心できる居場所となっていた。災害列島化しつつある日本にとって人と人の交流こそ大切なものはない！！



食堂は大忙し



たい焼き・かき氷移動販売車



まうまんま



輪投げリサイクルショップ



お買い得コーナー



Café くれよん



荒川氾濫解説～北砂アカデミア防災塾～おしっこ凝固実験



喫茶たむろす

1. 首都を襲う巨大水害・荒川氾濫一砂町地域水害避難支援システムづくり

話題提供：中瀬

(1) 首都を襲う荒川氾濫

地球温暖化による台風や豪雨の大型化や、30年に70%の発生確率の首都直下地震による「荒川氾濫」が予想される。

江東5区広域避難推進協議会のハザードマップには江東5区のほとんどが水没し、人口の9割以上の250万人が浸水、2週間以上も引かないことや、あなたの住まいや区内には居続けることができないと警告を鳴らしている。地下鉄には浸水が入り、霞が関にも及ぶと国土交通省荒川河川下流事務所 YouTube『荒川氾濫』にその危険性を示している。地域の人々の食生活はスーパーやコンビニに依存していることから、それらの浸水で食生活崩壊が危惧される。その後、NHK『首都直下地震』を観て荒川氾濫の危険性を連想して頂いた。



(2) 水害避難支援システム

東日本大地震時、東北地方を海岸調査した中央大学有川先生はハード堤防だけでは人々を守れないと、高潮避難支援システム開発に取り組み、10年かけて三重県紀宝町でほぼ完成した。高い山のある地域では可能でも、江東5区のような山のない地域でも、高いマンション等があることから、住民とマンション等の間に助け合いの条例をつくり、高い建物に避難場所を確保しAR活用「水害避難支援システム」をつくるのが可能となる。スマホ画面に逃げ道を表示されたルートによって避難することが可能となる。



(3) 水害避難と水害避難支援システム

話題提供後、参加者にアンケート調査を行った。

- ① あなたはその時避難しますか。いつ避難するか、手段はどうするか。
 - @ はじめは避難しないとの回答が多かったが、水害避難支援システムの説明後に考えが変わったという人がほとんどで、避難するに変化した。
- ② AR活用「水害避難支援システム」は役立つと思いますか。
 - @ ほぼ全員が役立つと回答。火災や建物倒壊情報も気になる。操作性、早期実現を希望。
- ③ そのシステムに表示してほしい情報は？
 - @ 避難場所、危険建物や場所、車いす誘導・可能性、道の情報、階段情報、人の集中状況
- ④ 現在の水害災害に対して避難の備えがあれば教えてください。
 - @ 水、蓄電池、簡易トイレ、非常食、持ち出し袋、貴重品は多地域の人に預けている。
- ⑤ 行政に対して、希望する地域情報などがあれば。
 - @ 避難所の確保、水が引くまでの正確な時間、避難場所の安全性・備蓄量、地域ごとのCGシミュレーション、震災時などの助け合い条例。

所感：3・11 東日本大地震以降も、熊本地震、北海道東部地震、能登半島地震、宮崎地震と続き、南海トラフ地震、首都直下地震が危惧されている。さらに最近は台風が大型化するとともに、線状降水帯による豪雨が日本各地で頻発している。改めて、地震大国・災害大国化した日本を自覚せねばならない。大災害を自分事として学び、予測し、事前準備し、人と人との繋がりを大切にしなければならないと痛感する。(文責 中瀬)

